

「あの時代」と今日の美術。
そして紙芝居、漫画、アニメ、特撮など。

本展のみどころ

平成最後の展覧会！

平成の最後を飾る展覧会にふさわしく、日本全国から集められた約 400 点の作品・資料によって、昭和と平成というふたつの時代をふりかえります。絵画や写真とともに、紙芝居やアニメ、特撮と、大衆的なジャンル・メディアに登場した作品にまつわる貴重な資料の数々が会場に並びます。

なつかしの「ヒーロー」登場！

「黄金バット」「怪人二十面相」「のらくろ」「月光仮面」「ウルトラマン」…団塊世代にはなつかしいヒーローも登場。その活躍を彼らが活躍した時代の美術とともに振りかえります。

「ピーポー」って何ですか？

展覧会のキーワードは「ヒーロー」と「ピーポー」。「ピーポー」とは英語の「people」のこと。人民、大衆、公衆、民衆、群衆 etc. と色々な呼ばれ方をするひとびとの集団をさす言葉として担当学芸員がひねりだした造語です。対する「ヒーロー」は、よく使われる言葉ですが、人によって思い浮かべる対象は千差万別です。この展覧会では、当たり前のように使われるけれども定義することは難しい「ヒーロー」という存在についても、「ピーポー」との関係のなかで考えていきます。

会田誠ら注目アーティストの最新作は必見！

今をときめく4人のアーティスト（会田誠、石川竜一、しりあがり寿、柳瀬安里）が本展のための新作を発表します。歴史を振り返りながら、現在と未来を照らし出す表現にも出会うことができるという贅沢な展覧会です。

美術館で映画鑑賞！

関連イベントとして懐かしい映画、テレビ番組の上映会も実施。展覧会観覧券での割引もあるのであわせてお楽しみください。※詳細は美術館のHPで発表します。

Oh! マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー Heroes and People in the Japanese Contemporary Art



13) 会田誠《一人デモマシーン（サラリーマン反対）》2005年
Courtesy Mizuma Art Gallery

※展示されている作品は、英語バージョンです

展覧会概要

20世紀のはじめから現代へと至る日本の美術作家の表現には、社会的な関心が色濃く表れたものも少なくありません。本展はそうした傾向を示す作品の中でも、特別な存在（ヒーロー、カリスマ、正義の味方）と無名の人々（公衆、民衆、群衆）という対照的な人間のありかたに注目するものです。とりわけ大衆とも呼ばれる後者の存在は、どのようにその存在を可視化するのか、そしてどのようにして彼らとの間に連帯を築くことができるのかという切実な問いを表現者に投げかけてきました。ひとびとの集団＝本展でピーポーと仮に呼ぶ存在が、立場や考え方によっていくらでも変化し、わかれていくものであるという事実は、その姿をとらえがたいものにもするでしょう。本展で注目する特別な存在＝「ヒーロー」は、「ピーポー」が直面する困難やその願いを映し出す鏡としての、あるいはその存在に姿を与える触媒としての役割を担っています。

このような問題意識のもとに、本展では「ヒーロー」や「ピーポー」とは何かという問いに応えようとしてきた昭和と平成の時代に生まれた作品を5つのテーマに沿って見ていきます。さらにこれらのテーマとは別に、同時代の表現者による最新の実践もご紹介します。

本展では「美術」の領域にはおさまらない様々な大衆的メディア（紙芝居、漫画やアニメ、特撮など）を取り上げます。これは「美術」表現もまた、私たちの毎日の暮らしと地続きのものであることを示したかったからです。そして、現在活躍中の作家のみなさんの最新作を全国各地の美術館のコレクションとともにご紹介することで、過去とのつながりの中から現在と未来とが生まれることを改めて確かめたいと思います。

開催情報

特別展「Oh！マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー & ピーポー」

会期 2019年1月12日（土）－3月17日（日）
開館時間 午前10時－午後6時（金・土曜日は午後8時まで） 入場は閉館の30分前まで
休館日 月曜日 [ただし1月14日（月・祝）と2月11日（月・祝）は開館、1月15日（火）と2月12日（火）は休館]
会場 兵庫県立美術館
(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-0901 <https://www.artm.pref.hyogo.jp>)

主催 兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援 公益財団法人 伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
特別協力 宣弘社、円谷プロダクション、京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター
協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、TKG Foundation for Arts & Culture

観覧料金 一般1,300 (1,100) 円、大学生900 (700) 円、70歳以上650 (550) 円、高校生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金。前売券は一般・大学生のみ(1月11日(金)まで発売)。
※主な販売場所：兵庫県立美術館ミュージアムショップ(前売のみ)、阪神(当日一般のみ)・近鉄主要駅、JTBレジャーチケット(セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクス、ミニストップ/
前売券：0250065、当日券：0250066)
※障がいのある方(70歳以上を除く)は当日料金の半額、その介護の方1名は無料。
※大学生、70歳以上の当日券の購入および障がい者割引の適用には証明が必要。割引を受けられる方は、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。
※県美プレミアムは別途観覧料が必要(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)。
※金額はいずれも消費税込金額です。

昭和と平成をあわせたおよそ 90 年の間にひとびとの暮らしは大きく変わりました。昭和のはじめに華やかな都市文化が花開く一方でひとびとの間の格差も広がりました。それから戦争の時代、復興期、冷戦下での高度経済成長、オイルショックを潜り抜けてからのバブルと呼ばれる好景気とその破たん、そして冷戦終結後の混迷の時代。目まぐるしく移り変わる世相の中にあられた「ひとびと=ピーポー」と「ヒーロー」の姿を5つのテーマに添ってご紹介します。これらのテーマごとの展示に加え、現在活躍中の作家の皆さんによる最新作もご紹介します。

(1) 集団行為 陶醉と閉塞

ひろがる格差や理不尽な差別に対する抗議。復興というひとつの目標にむかって共に働くよろこび。一糸乱れぬ秩序だった集団行動。ここではそれぞれの性質の違いに注目しながら 20 世紀の日本に現われた群像表現をたどります。



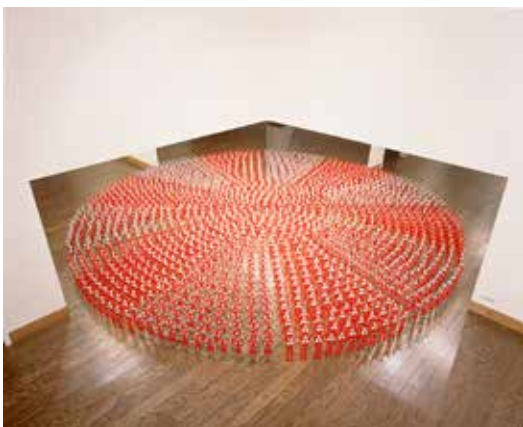
1) 阿部合成《見送る人々》1938年 兵庫県立美術館

(2) 奇妙な姿 制服と仮面

「普通」のひとつとはまるで異なる奇妙な姿の怪人物。彼らは正義の味方だとは限りません。時にはその異様な姿や振る舞いによって、ひとびとが無意識に設けているさまざまな境界線を揺さぶり、より寛容な共同体を想像するためのきっかけを与えるものでもあるのです。敵か、味方か、道化か、宇宙人か。正体不明、変幻自在の人物達を追いかけます。



3) 鈴木一郎作、永松健夫画『黄金バット』1931年頃 個人蔵



2) 柳幸典《バンザイ・コーナー》1991年 横浜美術館
 ©YANAGI STUDIO ※複製禁止



4) 平田実《「反戦のための万国博」における万博破壊共闘派のパフォーマンス 大阪城公園》1969/2018年 ©Minoru Hirata / Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film

(3) 特別な場所 聖地と生地

特別な場所というのは人によって様々にあるでしょう。ともにいただく畏き場所もあれば、その身を投げ出して惜しくない大切なふるさと。あるいは当たり前のように通り過ぎていた通勤途上の一角。ここではひとびとが登場する場所に注目しながら作品を見ていきます。



5) 立石紘一《哀愁列車》1964年 高松市美術館
 ©Tiger Tateishi Courtesy of YAMAMOTO GENDAI



6) Chim ↑ Pom 《BLACK OF DEATH 2013》2013年
 東京国立近代美術館
 ©Chim ↑ Pom Photo courtesy of the artist and MUJIN-TO Production

(4) 戦争 悲劇と寓話

戦地に兵士を送り出すひと。見送られて戦場に赴くひと。戦争においては否応なくすべてのひとびとがこの非常事態に組み込まれることとなりました。子供向けの雑誌や漫画、紙芝居、大人には映画や作戦記録画の展覧会などを通じて、国内にとどまる人も戦地に向かう人も戦争という物語を生きました。ここでは 1945年に終わる熱い戦争とともに、その後も続いた冷たい戦争の時代を象徴する作品を取り上げます。



7) 田河水泡『のらくろ総攻撃』表紙原稿 1937年
 提供・株式会社講談社 © 田河水泡/講談社

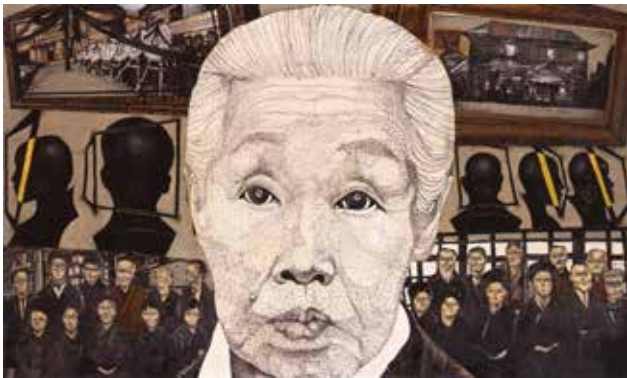
※掲載ご希望の場合、当館からお送りする「画像データ使用申込書」
 にご記入いただき、株式会社講談社へご提出ください
 (画像の提供は講談社/記事の校正は当館が、それぞれ担当します)



8) 鶴田吾郎《神兵 パレンバンに降下す》1942年
 東京国立近代美術館（無期限貸与） © 阿王桂

(5) 日常生活 私と私たち

特別ではない毎日の暮らしの中でも、私たちは他者との関わりと無縁ではられません。誰も自分自身の生活が一番大切であることは当然ですが、個人的な決断が社会的な意味を帯びることも往々にしてあるでしょう。ここでは、そうした個人の生活と社会との関わりに注目しながら作品を見ていきます。



9) 中村宏《四世同堂》1957年 宮城県美術館



10) 赤瀬川原平《警察バンザイ》1971年 個人蔵
 ©1971 Akasegawa Genpei
 協力：SCAI THE BATHHOUSE

【トピック：「月光仮面」と川内康範】

宣弘社制作の「月光仮面」(1958-1959年放映)は日本で最初のフィルムによる国産連続テレビ映画として1958年から翌年にかけて放映されました。特撮ヒーローの元祖であるこの作品とともに、その原作者である川内康範の業績を振り返ります。



11) 『月光仮面』1958年 ©川内康範/宣弘社

【トピック：『ウルトラマン』と金城哲夫】

戦後日本が生んだ最大の特撮ヒーロー「ウルトラマン」(1966-1967年放映)は多くの才能の幸福な出会いによって誕生しました。そのなかでも企画と脚本監修をつとめた金城哲夫に注目しながら、彼がたずさわったウルトラシリーズの系譜をたどります。



12) 『ウルトラマン』1966年 ©円谷プロ

※「DVD 上映会」についてご紹介いただくと同時にいずれかの作品図版も掲載いただける記事に限り、掲載可能

(6) 私たちの時代の表現

会田誠さん、石川竜一さん、しりあがり寿さん、柳瀬安里さんによる本展のための最新作をご紹介します。



13) 会田誠 《一人デモマシーン (サラリーマン反対)》2005年
Courtesy Mizuma Art Gallery

※展示されている作品は、英語バージョンです



14) 石川竜一 《MITSUGU》2018年 作家蔵

会田誠 (1965-)



新潟県出身。1991年、東京藝術大学大学院美術研究科修了。美少女、戦争、サラリーマン、日本の国際化や時事問題などの幅広いテーマを、洋画・日本画にとどまらずアニメや児童画のスタイルも借りた平面作品、映像や立体と、ありとあらゆる技法を用いて皮肉たっぷりに表現する。その風刺精神と脱力感にあふれる作品は、時に物議をかもしつつ、幅広い世代からの支持を集めている。小説『青春と変態』(1996)、エッセイ『美しすぎる少女の乳房はなぜ大理石でできていないのか』(2012)など執筆活動も旺盛。

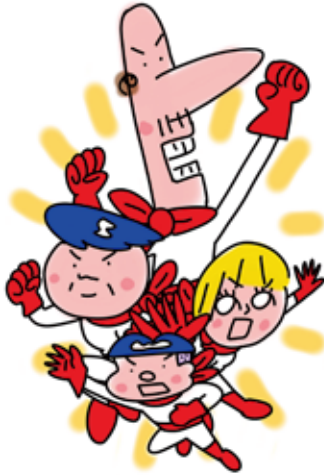
石川竜一 (1984-)



沖縄県出身。2006年、沖縄国際大学総合文化学部卒業。大学在学中に写真と出会う。2008年に前衛舞踊家のしば正龍に師事。2010年、写真家勇崎哲史氏に師事。2011年には東松照明デジタル写真ワークショップに参加。生まれ育った沖縄で出会ったひとびとの姿をおさめた「okinawan portraits 2010-2012」のシリーズにより2012年に第35回写真新世紀佳作受賞。2015年には前年に出版された2冊の写真集『okinawan portraits 2010-2012』と『絶景のポリフォニー』により第40回木村伊兵衛写真賞と日本写真協会賞新人賞を受賞。現在も沖縄を拠点に、写真集の出版や国内外の美術館での発表を行う。

担当学芸員がこの4人のアーティストに出品をお願いした理由

今回の展覧会では、今の時代にもっとも困難なことに挑戦するつもりでした。それは歴史を学び、現実を知り、その上でなお希望を語ることです。そのためには私たちと同じ時代を生きるアーティストの皆さんの力を借りる必要があると考えました。新作を発表してくださる4人のアーティストは世代も表現の方法もことなりますが、「ピーポー」の弱さを知り、誤りを知り、それでもなお「ピーポー」に寄り添おうとする姿勢は共通していると、担当学芸員は考えています。



15) しりあがり寿《地球防衛家のヒトビト》2018年



16) 柳瀬安里《線を引く》2015-2016年

しりあがり寿 (1958-)



静岡県出身。1981年、多摩美術大学デザイン科卒業。飲料メーカー入社後、漫画を描き始め1985年に『エレキな春』でデビュー。白土三平などのパロディやサラリーマン生活を突飛な発想で描いたギャグ漫画によって人気を得る。1994年に漫画家として独立してからは、幻想的な設定により文学的・哲学的テーマを描く独自の境地を確立し、その評価を不動のものとする。2001年に『弥二喜多 in deep』により第5回手塚治虫文化賞マンガ優秀賞受賞。2011年に『あの日からのマンガ』により第15回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞。2006年以降は美術館や芸術祭などでの映像やインスタレーションによる美術作品の発表も積極的に行う。2006年より神戸芸術工科大学メディア表現学科特任教授。2014年、紫綬褒章受章。

柳瀬安里 (1993-)



埼玉県出身。2016年、京都造形芸術大学美術工芸学科卒業。関西でいま最も注目を集める新進作家のひとり。さまざまな軋轢や葛藤の生じる場所や状況に自らの身体を差し入れ行動することで、その場所や状況を暗黙のうちに規定している明文化されないルールや境界の存在を顕在化させ、それをゆるがすようなパフォーマンスを行う。近年参加した展覧会に「フクシマ美術」(KUNST ARZT、京都、2016)「光のない。一私の立っているところから」(KUNST ARZT、京都、2017)、「接触の運用」(京都 HAPS、京都、2018)など。

関連行事

※詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。

(1) 映画上映会

展覧会の内容と関連する『ゴジラ』(1954年)などの上映会を実施します。

日時：下記のタイムスケジュールをご覧ください。

会場：ミュージアムホール

観覧料：1,000円(各展覧会チケットまたは半券により500円に割引)、定員250名

※各タイトルごとの入れ替え制。



17) 『ゴジラ』1954年 TM & ©1954 TOHO CO., LTD.

※「映画上映会」についてご紹介いただける記事に限り、掲載可能

	2月22日 (金)	2月23日 (土)	2月24日 (日)	3月8日 (金)	3月9日 (土)	3月10日 (日)
10:00						
10:30	ハ・マ海戦 (117分)	ゴジラ (98分)	桃太郎海の神兵 (74分)	ゴジラ (98分)	ハ・マ海戦 (117分)	ゴジラ (98分)
11:00						
11:30	10:30~12:27	10:30~12:08	10:30~11:44	10:30~12:08	10:30~12:27	10:30~12:08
12:00						
12:30						
13:00	ゴジラ (98分)	桃太郎海の神兵 (74分)	ハ・マ海戦 (117分)	ハ・マ海戦 (117分)	桃太郎海の神兵 (74分)	桃太郎海の神兵 (74分)
13:30						
14:00	13:00~14:38	13:00~14:14	13:00~14:57	13:00~14:57	13:00~14:14	13:00~14:14
14:30						
15:00						
15:30	桃太郎海の神兵 (74分)	ハ・マ海戦 (117分)	ゴジラ (98分)	桃太郎海の神兵 (74分)	ゴジラ (98分)	ハ・マ海戦 (117分)
16:00						
16:30	15:30~16:44	15:30~17:27	15:30~17:08	15:30~16:44	15:30~17:08	15:30~17:27
17:00						
17:30						
18:00	ゴジラ (98分)	桃太郎海の神兵 (74分)		ハ・マ海戦 (117分)	ゴジラ (98分)	
18:30						
19:00	18:00~19:38	18:00~19:14		18:00~19:57	18:00~19:38	
19:30						

※映画上映会は有料、各回ごとの入れ替え制です。

※映画観覧券は兵庫県立美術館1階のチケットカウンターにてお求め下さい。

※開場は上映開始時間の30分前を予定しております。



(2) DVD 上映会

展覧会の内容と関連する『ウルトラマン』などのテレビ番組の DVD 上映会を実施します。

日時：3月15日（金）、16日（土）、17日（日）

会場：レクチャールーム

観覧料：無料（ただし要展覧会観覧券または半券）、定員 100 名

※詳細は、HP 等でお知らせします。

(3) 学芸員による解説会

企画担当学芸員が展覧会の見所を解説します。

講師：小林公（当館学芸員）

日時：1月14日（月・祝）、2月17日（日） ※いずれも午後2時から（約90分）

会場：レクチャールーム

参加費：無料（要観覧券）、定員 100 名

(4) ボランティアによる解説

当館ミュージアムボランティアが展覧会の見所を簡潔に紹介します。

講師：兵庫県立美術館 ミュージアムボランティア

日時：毎週日曜日午前11時より 約15分

会場：レクチャールーム

参加費：無料、定員 100 名

(5) こどものイベント『『ふきだし』つけちゃおう！』

日時：1月26日（土）午後1時00分から午後3時30分

会場：アトリエ2、企画展示室内

対象：小学生～高校生 ※小学校2年生以下は保護者同伴必要

定員：こども 30 名

参加費：500 円（保護者の方は観覧料 1,100 円（団体料金）が必要です）

申込方法：12月26日（水）午前10時より電話受付開始・先着順（TEL 078-262-0908）

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0901 (代) FAX: 078-262-0903 (代)

<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること

営業・広報担当

TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

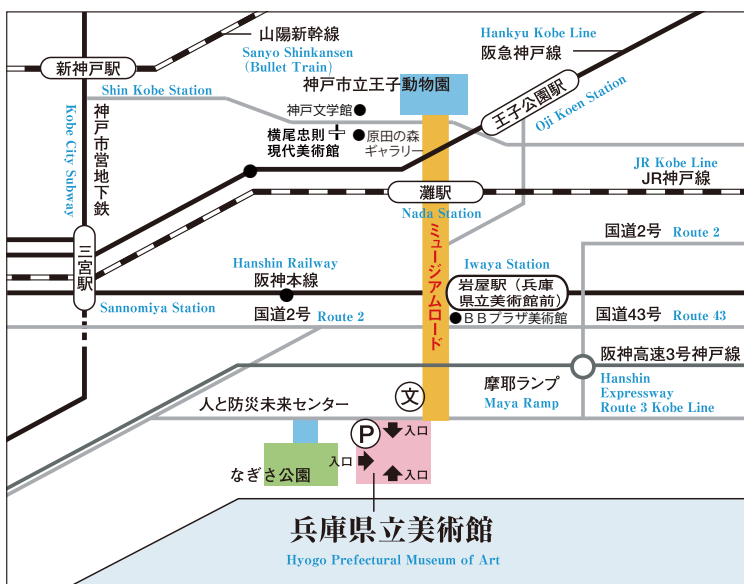
担当学芸員：小林公、岡本弘毅、出原均

e-mail: tkobayashi@artm.pref.hyogo.jp

TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

【交通案内】

- ・阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
 - ・JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
- *団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



広報用画像について留意事項

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

- 作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。
- 画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- WEBサイトに掲載する場合は、コピーガードを施してください（コピーガード対応が出来ない場合には、末尾「申込書」で「*」のついていない画像の中からご希望の画像をお選びください）。
- 基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。
- 展会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。
- 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

広報画像申込書 特別展「Oh! マツリ☆ゴト」 2019年1月12日(土) - 3月17日(日)

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

- | | |
|------|--|
| 1 | 阿部合成《見送る人々》1938年 兵庫県立美術館 |
| * 2 | 柳幸典《バンザイ・コーナー》1991年 横浜美術館 ©YANAGI STUDIO ※複製禁止 |
| 3 | 鈴木一郎作、永松健夫画『黄金バット』1931年頃 個人蔵 |
| 4 | 平田実《「反戦のための万国博」における万博破壊共闘派のパフォーマンス 大阪城公園》1969/2018年
©Minoru Hirata / Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film |
| 5 | 立石紘一《哀愁列車》1964年 高松市美術館
©Tiger Tateishi Courtesy of YAMAMOTO GENDAI |
| 6 | Chim ↑ Pom《BLACK OF DEATH 2013》2013年 東京国立近代美術館
©Chim ↑ Pom Photo courtesy of the artist and MUJIN-TO Production |
| 7 | 田河水泡『のらくろ総攻撃』表紙原稿 1937年 提供・株式会社講談社 ©田河水泡/講談社
※掲載ご希望の場合、当館からお送りする「画像データ使用申込書」にご記入いただき、株式会社講談社へご提出ください
(画像の提供は講談社/記事の校正は当館が、それぞれ担当します) |
| 8 | 鶴田吾郎《神兵 バレンバンに降下す》1942年 東京国立近代美術館(無期限貸与) ©阿王桂 |
| 9 | 中村宏《四世同堂》1957年 宮城県美術館 |
| * 10 | 赤瀬川原平《警察バンザイ》1971年 個人蔵 ©1971 Akasegawa Genpei 協力: SCAI THE BATHHOUSE |
| 11 | 『月光仮面』1958年 ©川内康範/宣弘社 |
| 12 | 『ウルトラマン』1966年 ©円谷プロ
※「DVD 上映会」についてご紹介いただけると同時にいずれかの作品図版も掲載いただける記事に限り、掲載可能 |
| 13 | 会田誠《一人デモマシーン(サラリーマン反対)》2005年 Courtesy Mizuma Art Gallery
※展示されている作品は、英語バージョンです |
| 14 | 石川竜一《MITSUGU》2018年 作家蔵 |
| 15 | しりあがり寿《地球防衛家のヒトビト》2018年 |
| 16 | 柳瀬安里《線を引く》2015-2016年 |
| 17 | 『ゴジラ』(1954) TM & ©1954 TOHO CO., LTD. ※「映画上映会」についてご紹介いただける記事に限り、掲載可能 |

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名:

○媒体名: (新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

※ウェブサイトへ掲載ご予約の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可
(「不可」の場合、「*」のついていない画像の中から、ご希望の画像をお選びください)

○ご担当者名:

○メールアドレス:

ご連絡先 ○電話番号:

○FAX 番号:

○ご住所: 〒

○URL:

○掲載・放送予定日:

○画像到着希望日:

○読者・視聴者プレゼント用招待券: 組 名 様分を希望

(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)